

## 世界とつながる地域の歴史と文化

高柳 俊男

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：なし

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：前期

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

### 【授業のテーマ】

管理 ID：1273835  
授業コード：C0902

この授業は、昨年度から夏休みに長野県の飯田・下伊那地域で実施している「S J 国内研修」に参加する学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。

「S J 国内研修」自体は、一般学生の SA に代わるもので、地方都市での生活を体験することで、留学生にとっての SA とも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、「地方の視点」でも考える目を養うことを趣旨としている。

したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、7泊8日の「S J 国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係に重点を置きながらみていく。

### 【授業の到達目標】

授業の進展につれ、長野の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J 国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマをみつけ、夏休み中の学習を経て研修本番につなげられるようにすることが目標である。

### 【授業の概要と方法】

テーマに沿って、教員による講義を中心に進めていく。関連する映像の上映も、随時織り交ぜる。

特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界につながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべきことは理解し、覚えるべき地名や人名などは覚えていただく。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などを「コメントシート」に書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

### 【授業計画】

#### 前期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業と、「S J 国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施する。
第 2 回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある 1 市 3 町 10 村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県・静岡県との県境を越えたネットワーク（三遠信ないし三遠南信）についても考える。
第 3 回	飯田・下伊那の概況②	前回に続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937 年に成立したもとの市域に、1950 年代以降、周辺の 15 の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味を考察する。
第 4 回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。

第 5 回	飯田線建設史①	現在の J R 飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第 6 回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、飯田線沿線で上演されている合唱劇『カネト』を DVD 鑑賞しながら、再度考える。
第 7 回	満州移民の歴史①	1930 年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第 8 回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ『蒼い記憶』をビデオ鑑賞しながら、再度考える。
第 9 回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう記録し後世に伝えようとしているかを探る。また、「残留孤児の父」と称された阿智村の長岳寺住職、山本慈昭について知る。
第 10 回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第 11 回	飯田・下伊那の文化①	人形芝居や歌舞伎など、この地域に残る各種の民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内にある黒田人形・今田人形について、映像で確認する。
第 12 回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特色ある文化活動として、70 年以上の歴史を誇る郷土雑誌『伊那』の発刊や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第 13 回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ椋鳩十・西尾実・森田草平の 3 人について、自校教育の意味も含めて取り上げる。
第 14 回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970 年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。
第 15 回	まとめと課題設定	学習を振り返り、「S J 国内研修」の中で重点的に学びたい課題を各人に設定してもらうことで、全体のまとめとする。

### 【授業外に行うべき学習活動（準備学習等）】

毎回配布するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の「授業支援システム」にも掲載する。これは自習であって、提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く調べ、考えてみることを推奨する。

#### 【テキスト】

しんきん南信州地域研究所『いいだ・南信州 大好き』（2010年）をこちらで用意するので、毎週必ず持参すること。  
ただし、授業はこのテキスト通りに進めるわけではなく、学習内容に即したプリントを毎回、別途配布して併用する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場でも活用すること。

#### 【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、B T 20階の国際文化学部資料室に設けられた「国内研修候補地関連文献」のコーナー（仮称：飯田・下伊那文庫／800点以上所蔵）に収められているので、大いに利用してほしい。

#### 【成績評価基準】

出席 30%、毎回提出する「コメントシート」に反映された授業に取り組む姿勢 30%、学期末のレポート 40%を目安とする。

#### 【学生による授業改善アンケートからの気づき】

とくにS J国内研修に参加せず、1つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれないが、「個別を極めることを通して普遍に至る」を目指してやっている。今後とも、そのアプローチのもつ意義を理解させながら授業を進めていくので、そのつもりで臨んでほしい。

#### 【その他】

「S J国内研修」への参加が義務づけられている留学生入試経路による留学生は、2年前期に必ず履修すること。また、それ以外の学部学生で「S J国内研修」への参加（ボランティア補助員としての参加と一般参加の2種類あり。詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照）を希望する学生も、この事前学習の履修が参加の前提条件となる。

「S J国内研修」に参加しない人の受講も認めるが、総受講者数24人を目安に選抜を行なうことがあるので、第1回目の授業に必ず参加すること。

昨年度からの新しい科目なので、切磋琢磨によりともに作り上げていくことを期待したい。

なお、やむをえぬ事情により教授会がS A参加免除を認めた学生がS Jへの参加を希望した場合も、留学生に準じた形で参加できる制度の新設が現在進行中であることを付記する。詳細は学部窓口か、この授業の第1回目を確認してほしい。

#### 【選抜の有無】

「その他」欄にも記載されているように、留学生、およびS J参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、制限人数を超えた場合は初回授業で選抜を行なう。